

## 鹿児島大学における教職員の禁煙意識調査—大学敷地内禁煙化の準備として—

鹿児島大学保健管理センター 河村 裕

【はじめに】鹿児島大学では、平成 16 年 6 月より建物内禁煙が実施された。次の目標である敷地内禁煙化に向けて、教職員の喫煙状況調査と敷地内禁煙化実施に対する意識調査を行ったので報告する。

【方法】平成 17 年度教職員定期健康診断時に、全員を対象に喫煙に対する無記名のアンケート調査を行った。設問項目は、喫煙状況、受動喫煙の有害性や健康増進法の知識、敷地内禁煙化への賛否、禁煙サポートプログラムへの意識等で、健康診断終了時に回収した。

【結果】健康診断受診者 1,902 名中、アンケート回答者は 1,859 名で、アンケート回収率は 97.7%であった。喫煙率は男性 27.3%、女性 4.9%であった。喫煙者の禁煙願望については、毎日喫煙するグループでは 7 割以上、時々喫煙するグループでは約 8 割の人に禁煙願望があることが分かった。敷地内禁煙化に対しては、教職員全体で約 8 割の人が賛成であった。これを喫煙者・非喫煙者の男女別に比較したところ、男性喫煙者は他のグループよりも賛成率が低かった。しかし、敷地内禁煙化に反対の男性喫煙者グループ内でも、64.7%の人に禁煙願望があることがわかった（図 1）。敷地内禁煙化導入後の対応では、敷地内禁煙化反対の男性喫煙者は、禁煙願望の有無に関わらず約 7 割の人が敷地内禁煙を受け入れると回答していた。禁煙願望者と「止める気のない」人では、敷地内禁煙実施後の対応では、学外では喫煙すると回答した割合が多く変化が無かった。しかし、「是非喫煙を止めたい」と考えている人はこれを機に禁煙に挑戦すると回答した割合が「できれば止めたい」人より多かった。このことから、禁煙の動機付けの重要性が明らかになった。保健管理センターで施行している禁煙サポートの認識度

は 25.3%で、特に毎日喫煙している人では 34.1%と比較的高かった。関心度については、喫煙の度合いが高いほど関心が高いという結果であった。

【考察】平成 18 年度の日本たばこ産業株式会社の全国たばこ喫煙者調査によると、わが国の 20 歳以上の喫煙者率は男性 41.3%、女性 12.4%であると報告されている。単純には比較できないが、当大学の喫煙率は、一般的には低く、また喫煙者の比較的高い禁煙願望から、敷地内禁煙化を導入しやすい環境にあると思われる。敷地内禁煙化に反対が多い男性喫煙者グループでも、禁煙願望を持っている割合は高く、また実際に敷地内禁煙化が導入された場合は受け入れると回答している人が多かった。敷地内禁煙化に絶対的な反対を表明しているのはかなり少数だと思われた。敷地内禁煙化導入を機に「禁煙に挑戦したい」と考えている人も多く、なかなか止められない喫煙者にとっては、禁煙のきっかけになる良い機会ではないかと思われた。教職員の禁煙のきっかけとしては、保健管理センターにおいて平成 16 年より行っている禁煙サポートがあるが、その認識度は、まだまだ高いとは言えず、禁煙支援活動を広く知らせることも重要であると考えられた。

【結語】鹿児島大学では、喫煙者でも敷地内禁煙を望む者が多く、敷地内禁煙化を推進していく重要性が明確になった。

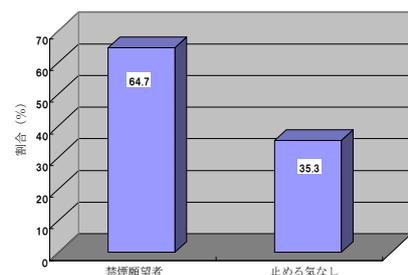


図 1 敷地内禁煙化に反対の男性喫煙者の禁煙願望